

第2学年1組 国語科学習指導案

1 単元 まとまりに分けて、お話を書こう「お話のさくしゃになろう」

2 本単元の指導の立場

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、読書に対する興味・関心が高く、図書館での読書の時間を楽しみにしている。学校司書による読み聞かせを楽しみにしており、最近では、絵のない本の読み聞かせで想像をふくらませながら聞くことができるようになってきている。また、第2学年「スイミー」の学習では、「はじめ」「中」「おわり」の文章構成にふれている。そして、「こんなもの見つけたよ」で「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで文章を書くことを学習した。そこで、自由に空想や想像の世界を膨らますことができるこの期に本単元を取り上げる。絵をもとに想像を広げ、日頃から読書を通して書きためた「あらすじ集」を参考にして、「はじめ」「中」「おわり」の構成を考えて、出来事の順序に沿って簡単なお話を書くことが出来るようにしたい。このことは、「読書センター」としてだけでなく、「学習・情報センター」として学校図書館を活用していく子どもを育てるとともに、自分の考えを主体的に表現する子どもを育成する上からも意義深い。

(2) 教材の価値

本単元は、絵から想像したことをもとに、書くことを決め、「はじめ」「中」「おわり」の構成を考えて短いお話を書くことをねらいとしている。本教材は、「はじめ」と「おわり」の場面絵が示されており「中」を自由に想像することができるように設定されている。同じ場所でありながら、「はじめ」と「おわり」の間の時間の経過が表されており、子どもは、その間に何が起こったのか、いろいろな想像をふくらませることができると考えられる。また、「はじめ」と「おわり」の場面絵が共通であることから、「中」のそれぞれの工夫が明らかになるため、互いの作品を読み合うときにも興味をもち続けることができるものであり、簡単な構成を考えてお話を書くのに適していると言える。本単元での学習は、「おもちゃの作り方」で構成を考え、手順にそって書く学習へ発展していく。

(3) 指導の構え

「あらすじ集」をもとに短いお話を書くことは、日頃の読書活動を生かして「はじめ」「中」「終わり」の構成を意識して事柄の順序に沿って内容のまとまりごとに書く活動に適していると考えられる。

本単元の指導にあたっては、絵から想像を広げ「はじめ」「中」「おわり」の構成を考えながら出来事の順序に沿って短いお話を書くことができるようにしたい。そのために、まず、「つかむ」段階で、お話クイズをしてお話には作者がいることに気付かせ、お話の作者になるという見通しをもたせる。次に、「つくる」段階で既習の物語や、読書活動を通して書きためた「はじめ」「中」「おわり」であらすじを書いている「あらすじ集」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」の構成を考えて想像を広げてお話を書かせる。そして、「みがく」段階では、友だちと読み合い誤字脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正していく。最後に、「生かす」段階で自分が作った物語をペア学年の5年生に読み聞かせて、学習の振り返りを行う。

特に本単元では、日頃から読書活動を通じて「あらすじ集」を書く活動を位置づけ、「はじめ」「中」「おわり」の構成に気付かせるようにする。それを「つくる」段階において活用し、「中」の内容を捉えさせるようにして、学校図書館の活用を図る。

3 目標

(1) 絵から想像を広げ、どのようなお話にするかを楽しみながら進んで考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

(2) 「はじめ」「中」「おわり」の文章の構成を考えながら出来事の順序に沿って、短いお話を書くことができる。

【書くこと】

(3) 句読点の打ち方や、助詞、かぎの使い方を理解して文章の中で使うことができる。

【言語についての知識・理解】

4 単元の展開（全10時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	①	<p>1 自分だけのお話を作り上げるという課題を設定し、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1) 本の題名と作者名を結びつけ、お話には作者がいることに気づく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お話のさくしゃになって、せかいに一つだけのお話を作り、5年生に読み聞かせをしよう</p> </div> <p>(2) 学習の流れを確認し、お話を書くために必要なことを確かめる。</p>	<p>○ お話には作者がいることに気付かせるために、これまでに学習した物語やおすすめの本について、マッチングクイズを行う。</p> <p>○ 「がくしゅうのすすめ方」を読み学習の見通しをもたせる。</p>
	①	<p>2 まとまりに気をつけて、お話を書く。</p> <p>(1) お話の設定をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の物語を参考に、主人公の名前を決め、人物像をふくらませて設定をつくる。 <p>(2) 対応を考えながら、「はじめ」と「おわり」に書くことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタートとゴールの場所を決める。 (何が変わって帰ってきたのかを考える。) 	<p>○ 登場人物には、名前の他に性格等の「人物像」が決められていることを理解することができるようにする。</p> <p>○ 教科書P28の絵を見せながら「はじめ」と「おわり」に書くことをメモさせながら発表させ、共通点を見出せる。</p>
つくる	本時	<p>(3) 「はじめ」と「おわり」とのつながりを考えながら、「中」で起こる出来事を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 途中で起こる出来事を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・人間に出会って、ポケットに入れられたらどうなるだろう。 ・どんな人と出会うかで、お話が変わるな。 ○ 出来事の順序を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのように元の場所に戻ろうかな。 	<p>○ 「中」には、幾つかの出来事があることを理解するために、既習の物語と自分が書きためた「あらすじ集」を参考にさせる。</p>
	①	<p>(4) 人物の行動や会話を考えて、「はじめ」「中」「おわり」の下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人物がしたことの順序を考え、会話を加えながら、お話を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・会話を入れると、登場人物の気持ちがよく分かるね。 	<p>○ 人物がしたことの順序を確かめたり、会話を取り入れると生きとした文章になることを助言し、納得のいくお話を書くことができるようにする。</p>
みがく	①	<p>3 声に出したり友だちに読んでもらったりしながら下書きを直し、清書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 丁寧に清書をしてお話の見直しをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」「どうした」お話を、分かるように書いているかどうか見直そう。 	<p>○ 主語と述語のつながりを確かめさせるために、“「だれが」「どうした」お話なのか”と発問し、お話の見直しをさせるようにする。</p>
生かす	②	<p>4 出来上がったお話を読み合い、互いに感想を伝え合ったり5年生に読み聞かせをしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面白かったことをカードに書き、感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が工夫したところを、よかったと書いてもらってうれしかった。 ・また、ちがうお話を作ってみたいな。 	<p>○ 感想を伝え合う場を設けることで、お話を書けた達成感や成就感をもつことができるようにする。</p>

5 本時の主眼

- 「はじめ」と「おわり」のお話を対応させながら、「中」には順序を考えて出来事を組み立てるとよいことが分かり、言ったこと、したことを想像して書くことができる。

6 準備 あらすじ集 おすすめの本

7 本時の展開（45分）

段階	学習活動と内容	教師の支援
つ か む つ く る み が く 生 か す	<p>1 これまで学習した物語の「中」を振り返り、本時のめあてをとらえる。</p> <p>○ 「お手紙」をもとに、「中」で起こった出来事に興味をもたせる。</p> <div data-bbox="284 696 938 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>中の部分には、お手紙が来なくてがまくんが悲しんでいたね。</p> </div> <div data-bbox="252 801 954 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「中」のできごとがよくつたわるような、書き方のひみつを見つけよう。</p> </div> <p>2 書きためた「あらすじ集」の「中」で起こった出来事を読み、「中」の出来事の内容について話し合う。</p> <p>(1) ペアで、似たところや違いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、お姫様じゃなくて王子様だよ。 ・この本も主人公が旅に出ているよ。 <p>(2) いろいろな出来事を交流し、出来事の内容を確かめる。</p> <div data-bbox="252 1182 427 1234" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>出会う</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お姫様に会う。 ・おおかみに会う。 <div data-bbox="252 1256 427 1328" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>事件 ハプニング</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・森で迷子になる。 ・穴に落ちる。 <div data-bbox="252 1346 427 1417" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>うれしいこと 悲しいこと</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・宝物をもらう。 ・宝物をなくす。 <p>3 「中」に起きる出来事をメモに書き、「はじめ」と「おわり」を考えながら出来事の順序を考える。</p> <p>○ 出来事によって、主人公がどう行動するか、どんな会話があるか想像して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姫様に会ったら、なんて言おうかな。 ・だれと出会うかで、出来事が変わってくるよね。 <div data-bbox="252 1682 954 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「中」のできごとの書き方のひみつは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できごとのなかみをいくつかつくる。 ・つながりを考えてできごとのじゅんじょを考える。 </div> <p>4 「中」の出来事を交流し、友だちの工夫やよさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」と「おわり」と「中」の出来事がつながっていて、おもしろい話になりそうだね。 	<p>○ 既習の物語を中心に例を挙げ、「中」には幾つかの出来事があることを確認して、めあてをつかませる。</p> <p>○ お話は「はじめ」「中」「おわり」の構成で書かれており、どこに、どのような内容が書かれているかをつかむために、「はじめ」「中」「おわり」であらすじを書きためておいた「あらすじ集」を活用する。</p> <p>○ 出来事の共通点で分けることで、(出会う)(事件・ハプニング)(うれしいこと・悲しいこと)などのパターンを知り、自分で書くときの手がかりにできるようにする。</p> <p>○ 学習ノートに「はじめ」や「おわり」のお話をつけ、「はじめ」や「おわり」とのつながりを考えて「中」の出来事の内容や順序を考えることができるようにする。</p> <p>※ 「はじめ」と「おわり」とを対応させ、出来事の順序を考えながら、「中」のお話を組み立てている。</p> <p>○ 「あらすじ集」を活用して、出来事を書いていることを賞賛し、次時への意欲付けを図る。</p>